

平成 29 年 11 月 22 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：木村、田中、手嶋

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

128

11月の月例会

11月の月例会、みなさんには大変ご迷惑をおかけいたしました。<m(_)_m>

日にちについては、今後も原則1日開催で行います。11月のように、日にちが異なる場合は、みなさんに漏れのないようにお伝えしたいと思います。重ねてよろしくお願ひいたします。

杉村楚人冠と南方熊楠

今月の月例会では、杉村楚人冠記念館の高木学芸員から「杉村楚人冠と南方熊楠」をお送りしました。南方熊楠は、今年生誕150周年を迎え、今注目の的となっています。

●南方熊楠について



南方熊楠生誕150周年記念展示

「知の巨人」熊楠と新聞人楚人冠

平成29年10月7日(土)～平成30年1月8日(月・祝)

我孫子市杉村楚人冠記念館
〒270-1153 千葉県我孫子市緑2-5-5
電話 04-7182-8578

ここで、南方熊楠について、基本情報から確認していきます。熊楠は、慶応3(1867)年和歌山生まれで、旧制和歌山中学校第一期生として、その頭脳を開花させます。そして、帝国大学予備門では、同期であった夏目漱石、正岡子

規等、そうそうたる顔ぶれと肩を並べていました。まさに、近代教育から輩出された世代ということが出来ます。

病のため、和歌山へ一時帰郷後、明治20年アメリカへ留学、ミシガン州立農学校で学びます。この留学の頃から植物採集に目覚め、フロリダ州、キューバ滞在を経て、ロンドンへと渡ります。大英博物館の図書館への出入りも増え、科学誌『ネイチャー』にさかん

に投稿するようになります。

実家からの送金も途絶えたためそれを機に帰国。学位は取りませんでした。田辺に移住してからは、熊野の山中で植物採集をさかんに行い、10種の変形菌など、多くの新種を発見します。

(※変形菌とは…変形体と呼ばれる栄養体が移動し、微生物などを摂食する動物的性質を持ちながら、小型の子実体を形成し、胞子により繁殖するといった植物的性質を併せ持つ生物のことです。)

●熊楠と楚人冠との出会い



「羽山藩次郎と南方熊楠」

楚人冠(本名：広太郎)は、早くに父と死別し、伯父木梨貞斎宅に隣接する長屋に暮らします。その伯父宅に、田辺出身の喜多幅武三郎が下宿生としてやってきます。喜多幅は、旧制和歌山中学に入学し、熊楠と同期となり、そして終生の親友と

なります。杉村はここで喜多幅を通じて熊楠と面識を得たと思われます。熊楠は病気に伴い和歌山へ帰郷し、その際熊楠の同期生や後輩である杉村広太郎とも親しくなります。また、熊楠のお気に入りだった後輩として広太郎とは別に、羽山藩次郎、利光平夫が挙げられます。そして、翌明治20年熊楠と広太郎の文通が始まります。

●アメリカ時代の文通

南方熊楠頭章館(和歌山県田辺市)蔵の広太郎写真は、熊楠がサンフランシスコ滞在中に送付したものとされます(次のページ参照)。サンフランシスコの商業学校に満足しなかった熊楠は、その後、ミシガン州へ移り、ミシガン州立農学校へ入学します。

上京して、同郷の先輩たちと交流するように



広太郎写真（顕尊館蔵）

なった広太郎へのアドバイスも手紙には書いており、そのことから、同郷の人たちと交流を持っている広太郎は、アメリカに滞在していた熊楠には、友人の動向を伝える大切な情報元でした。

熊楠がフロリダ州に移った頃、文通は途絶えたと考え

られ、フロリダ～イギリスに渡るまでの熊楠は、あまり日本人との交流がないと言われています。

●熊楠の田辺定住まで

フロリダ州、キューバで植物採集に没頭し、熊楠はロンドンに移ります。ロンドンでは、亡命中の孫文と親しくなったと言われています。

イギリス大英博物館図書室に通った熊楠は、その博識ぶりから東洋部門の情報提供者として重宝されるようになります。また、科学誌『ネイチャー』や『ノーツ・アンド・クエリーズ』に盛んに投稿し、名を知られるようになります。しかしながら、熊楠はフリーの研究者であり、生活資金は酒造家を創業した父と弟が頼りであったため、父の死後、弟は熊楠の遺産相続分を仕送りとしていましたが、それが尽きてしまうと送金を打ち切れることを伝え、熊楠はやむなく帰国しました。イギリス学術界には名を馳せたものの、学校を卒業していないため、学位はなく帰国後の行き先はありませんでした。

その後、田辺に定住し、結婚。植物採集に没頭し、新種を次々と発見しました。

●神社祭祀反対へ

楚人冠は、教師や通訳を経てのち、明治36年東京朝日新聞へ入社します。明治41年には世界一周会と立て続けに特派員を任されて、新聞記者として地位を確立します。明治42年に、全国紙で唯一熊楠を取



り上げています。しかしながら、熊楠は、楚人冠訪問時は深酒で寝込んでおり、取材には苦勞を重ねたようです。同じ年に、熊楠は、糸田の猿神社が合祀され、森林伐採が多くされてしまったため、憤激し、地元の『牟婁新報』への投書を皮切りに神社祭祀反対運動を始めます。『牟婁新報』経営者の毛利清雅は熊楠と楚人冠共通の友人で、それを読んだ楚人冠は投書内容に共感し、東京朝日新聞の連載中に一部を紹介したこともありました。

●御進講をめぐる

※御進講とは…天皇に対して学問上の講義を行うこと

昭和4年、海軍の観艦式にあわせ、昭和天皇が和歌山巡幸しました。昭和天皇は生物学者であり、しかも変形菌に関心を持っていました。熊楠の御進講は天皇の意向であったと考えられますが、無位無官である熊楠のような人物の御進講は例がありませんでした。これにより、熊楠はたちまち渦中の人となると共に、進講のための準備に多忙を極めたと言われています。

楚人冠との交流もさることながら、熊楠の行動範囲には驚かされます。生誕150年の節目の年となります。今一度、南方熊楠について学んでみると面白い発見があるのではないのでしょうか。

新入ガイドさんが4名参加してくださります！！

10月の広報紙で、新しいガイドの方を募集したところ、4名の方のご応募がありました！有難い限りです。次回の月例会でご紹介しますが、順次みなさんと一緒に活動をしていただきたいと思います。また、お知らせをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。(*^_^*)

10月の来荘者数

10月の来荘者数は171人でした。11月に入り、団体さまが多く訪れています。予約等、受けましたらご一報いただければと思います。

連絡・意見交換など

●庭園公開について

今年も庭園公開を行います。チラシ・ポスターご紹介させていただきました。



●次回の月例会は…

2017年12月1日(金) みなさん、元気にお会いしましょう!(*^_^*)